

「インバウンドビジネスを創出する グローバル・ローカリゼーション」プロジェクト

代表者 村上嘉代子【准教授】（工学部共通学群）

構成員 古川修（大学院理工学研究科）／長谷川浩志（システム理工学部機械制御システム学科）／
山崎敦子、中村真吾、岡田佳子（工学部共通学群）

プロジェクトの概要

本プロジェクトは、大宮キャンパスが位置するさいたま市におけるインバウンド観光を活性化し、ビジネスの創出に貢献することを目的としている。さいたま市は、2017年には世界盆栽大会の会場となり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおいても会場のひとつとなっている。外国人観光客の誘致、また受け入れ体制強化のために、外国人のニーズやインバウンドビジネスに必要な要素を抽出し、外国人観光客をターゲットとした観光資源や観光サポートツールを開発する。本プロジェクトに参加する学生には、地域の特性や文化、観光産業についての理解を促し、工学的な視点による観光支援システムの提案をさせる。2016年度後半には、プロジェクト07との共同研究として、コミュニティサイクルを利用した観光客増加システムの提案を行った。

COC活動の成果

■教育①

前期に行われた、大学院理工学研究科のシステム工学専攻必修科目「システム工学特別演習」において、6名の学生が本プロジェクトに参加した。日本人学生6名と留学生1名の混成チームにより、フィールドワークやさいたま市との協議を通して、さいたま市の観光資源のひとつである盆栽に着目し、大宮盆栽美術館や盆栽村を訪れる外国人観光客を増加させることを目的としたシステムの提案を行った。

■教育②

後期に行われた、大学院理工学研究科の共通科目「産学・地域連携PBL」において、5名の学生（日本人2名、海外からの留学生3名）が本プロジェクトに参加し、コミュニティサイクルを利用した観光客増加のための、サービス構想を検討した。コミュニティサイクルの認知度が低いため、観光客の利用が困難である課題を抽出した。その対策として、ポートの位置をグーグルマップ上にプロットし、QRコード化してわかりやすくする、走行距離のランキングに応じて上位者に商品を発送する、プロモデルの自転車の導入などの提案を行った。

■研究

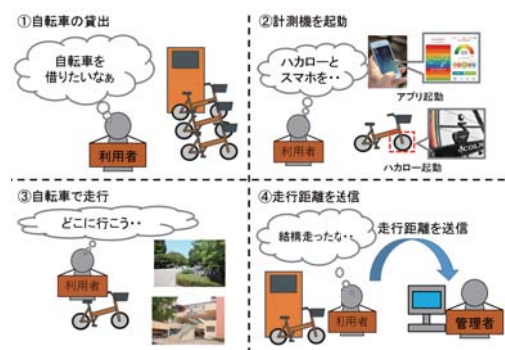
外国人の興味やニーズ分析のため、TripAdvisorとTwitterからのデータを利用し、さいたま市の食や観光名所に関する口コミ分析を行った。食に関して、TripAdvisorでトップ20の飲食店の口コミはほとんどが日本語であったが、外国人に人気のラーメンがさいたま市の食の特徴となっており、プロモーションのヒントとなる結果を得られた。また、Twitterでは、観光名所に関する英語での口コミを分析したところ、盆栽への関心が見られた。この成果は2016年9月に、国際会議 The 4th International Conference on Servicologyで発表した。

■社会貢献

地域の観光産業における問題点や課題を明らかにするため、さいたま市商工観光部観光国際課及び産業展開推進課の方々と議論を重ねた。また、授業においても指導いただき、観光産業を支援するシステムのプロトタイプを構築するに至った。2016年11月「地域共創シンポジウム」及び2017年3月「第3回COC学生成果報告会」でポスター発表を行った。



仮想現実ゲームとSNSを活用した、地域の特産品のPRにもつながる仕組み



どこまで走るかランキングをつけて、上位者に商品を発送。認知度の向上を計る



さいたま市役所でのヒアリング